

# ヘルプカード作成に関する経過報告

## 1 これまでの経過

近年、全国的に地震や水害等の大規模災害が発生しており、久留米市および近隣においても、北部豪雨や熊本震災などの大規模災害が起こっている状況である。

そのような中、基幹相談支援センターでは、平成29年9月から研修会や相談分科会で災害支援についての勉強会を行い、緊急時の必要な情報提供として、ヘルプカードを活用することを議論してきた。

従来のヘルプカードは福岡県作成のものであり、片面はマーク、片面は無地・自由筆記のスタイルとなっている。このヘルプカードについては、自由筆記だけでは書きづらい、何を書いてよいか分からない等の意見があり、うまく活用できていない状況が見られた。

このことから、相談分科会では、具体的な支援内容をチェックするチェック式や口頭でのコミュニケーションが難しい方を想定し、指さしで「はい・いいえ・わかりません」が分かるような項目を設けるなど、利用者のニーズに近い形の久留米市版ヘルプカードの作成を検討した。

検討にあたっては、記載内容について当事者等と議論を重ねるなど、様々な関係者の意見を反映させ、お試し版ヘルプカードを作成し、令和元年6月より地域活動支援センター、当事者分科会、特別支援学校の保護者、個別支援の当事者等に試用していただき、8月にモニタリングの為のアンケートを実施した。

## 2 アンケートから見えてきた課題

### 1) 回答者の特徴

アンケート回収数・・・23件

記入者の割合・・・家族 52%（特別支援学校保護者、医療的ケアが必要な児童がいる保護者等）、障害当事者 35%、関係者 13%

回答者の年齢層・・・10代 35%、30代 17%、20代・40代同率で 13%

回答者の性別と性別・・・女性 70%、男性 30%

住まいの形態・・・家族と同居 87%、一人暮らし 13%

障害種別・・・知的障害 42%、発達障害 28%、精神障害 13%、肢体不自由 10%、内部障害、音声・言語・そしゃく機能障害は各 2%

## 2) アンケート回答内容

Q1. これまでヘルプカード自体を知っていたか

A1. 知っていた・・・61%、知らなかった・・・39%

Q2. 福岡版のヘルプカードを利用したことがあるか

A2. 利用したいと思っていたが、利用したことはない・・・52%

知らなかった・・・26%、

利用したことがあり、現在も利用している・・・22%

Q3. 今回、久留米市版ヘルプカードを記入してみたの感想

A3. 記入しやすかった・・・57%

記入しにくかった・・・17%

(具体的な意見)

- ・記載欄に自分では思いつかない項目がありよかった
- ・子どもにアレルギーがあり、ランドセルの中に入れてある。何かあったときには助けになる
- ・連絡先を複数に、優先順位を付けられるようにしてほしい
- ・コミュニケーションの程度について、もっと具体的に書けるようにしてほしい。
- ・個人情報あまり書きたくない。個人情報が書かれており、見えるところに掲示するのは抵抗がある

Q4. 今回実際に久留米市版ヘルプカードを利用する機会があったか

A4. 機会が無かった・・・91%

機会があった・・・5% (買い物等の日常生活の時や交通機関、緊急・災害時)

Q5. 今後も久留米市版を利用したいか

A5. 利用したいと思う・・・70%

利用したくない・・・13%

Q6. 久留米市版ヘルプカードの今後改善してほしい点や取り組んでほしい点

A6. (以下自由筆記)

- ・小さくて目につきにくい、誰も気づいてくれない。ヘルプマークがもう少し大きく目立つようにしてもいい
- ・ヘルプカードを持っていることが分かる何かがあると良いと思う
- ・視覚障害の杖の様に周知されて欲しい。一般の人にも周知してもらいたい
- ・認知不足なので役に立たない

## 3) 考察

今回、久留米市版ヘルプカードを今後利用したいとの回答は7割を超える結果となり、久留米市版ヘルプカードへの関心の高さが分かることとなった。利用したいと考える方

は、災害や緊急時だけではなく、日常生活時や交通機関の利用時にも利用したいとの回答があり、日頃の生活の中でも支援を必要としていることがうかがえる。

また、ヘルプカードの利用を検討する方の中には、知的障害の方もおられ、本人ではヘルプカードに何を記入しておけば良いか情報整理が難しい方もいる。そのため、福岡版ヘルプカードでは記入に難しさを感じていた方でも久留米市版ヘルプカードでは具体的記入項目が設けられているため助かったとの声もあり、改めて久留米市版ヘルプカードの製作の必要性が高いと考える。

また、ヘルプカードは個人情報が含まれるため、表に見える形でも掲示に抵抗があるとの意見があり、管理方法には配慮の必要性があることを考えると、見える場所にはヘルプマークストラップを付け、ヘルプカードは手帳や財布に携帯する形が好ましいのではないかと考えた。しかし、ヘルプカードを身につけるにも、まずはヘルプカードとヘルプマークが何を意味するのか周知してもらう必要があると考えられる。